

スズキ目魚類に投薬したアンピシリン，オキシリン酸およびエリスロマイシンの筋肉における残留状況

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 渡辺, 研一, 森, 広一郎, 堀田, 卓朗, 飯田, 貴次
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014601

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



スズキ目魚類に投薬したアンピシリン、オキシリン酸およびエリスロマイシンの筋肉における残留状況

渡辺研一・森 広一郎・堀田卓朗・飯田貴次

4種のスズキ目魚類にアンピシリン（ABPC）、オキシリン酸（OA）またはエリスロマイシン（EM）を、それぞれ体重1 kgあたり20、30、50mg/日の投薬量となるように5、7、5日間経口投与し、その後、5、16、30日間休薬した。投薬および休薬終了の翌日に筋肉を採取し、被検薬の濃度を測定した。ABPCではいずれの魚種も投薬翌日に被検薬は検出されなかったが、OAおよびEMでは高濃度の被検薬が検出された。しかし、休薬終了翌日には、いずれも動物用医薬品の残留基準値以下の残留濃度であった。

栽培技研, 35(2), 25-30, 2008